



地域ブロック情報



日本社会福祉学会には7つの地域ブロックがあり、それぞれに特徴的な活動が展開されています。今号では、関東地域ブロックおよび中部地域ブロックの活動についてご紹介いたします。

関東地域ブロックから

関東地域ブロック担当理事
後藤 広史 (立教大学)

関東地域ブロックは年に1回の研究大会の開催、機関誌「社会福祉学評論」(電子ジャーナル)の発行を中心に活動を行っています。

機関誌「社会福祉学評論」は、昨年度は計5本の論文を掲載しました。体制を整え、比較的短時間で、査読を終えるようにしています。先般、執筆要項と投稿の際のフォーマットを改訂いたしました。会員の皆様には、それらに沿って投稿をしていただきたいと思います。かねてより課題であった、論文のデータベースの検索でヒットしていない件については、CiNiiではその問題が解決されました。引き続き多くのデータベースで検索ができるよう取り組みを進めていきたいと思っています。

なお関東部会では、機関誌「社会福祉学評論」に掲載された論文を対象に奨励賞を出す制度を設けています。過去の受賞者につきましては下記にある関東部会のHPをご覧くださいと思います。

今年度の研究大会は、2024年3月17日(日)を予定しております。昨年度に引き続き全面オンラインで開催します。今年度は「女性支援と社会福祉学—婦人保護から総合的支援への転換」(仮)をテーマに準備を進めております。当日の午前中には、自由研究報告を行います。関東地域ブロックの自由研究報告は、下記の3種類の部門に分かれています。

- ① 研究報告部門(報告30分、質疑応答20分)
- ② 萌芽的研究報告部門(報告15分、質疑応答10分)
- ③ 実践報告部門(報告15分、質疑応答10分)

自身の研究の進捗状況やニーズに合わせてどの報告にするか選べるようになっておりますので、特に若手の研究者の皆様には積極的に報告をしていただきたいと思います。

会員の皆様におかれましては、関東地域ブロックの今後のよりよい活動に向けて、ご要望などありましたらぜひお声を寄せていただけたらと思います。

関東地域ブロックHP <http://www.jsssw-kanto.jp/>

機関誌「社会福祉学評論」:<http://www.jsssw-kanto.jp/618.html>

関東地域ブロック事務局メール:kantobukaijimukyoku@gmail.com

中部地域ブロックから

中部地域ブロック担当理事
谷口 由希子(名古屋市立大学)

中部地域ブロックの主な活動は、①研究例会の開催、②機関誌『中部社会福祉学研究』の発行、③大学院生・若手研究者のための勉強会の開催の3つです。

研究例会は、毎年1回、春の研究例会として開催しています。ブロック内会員による自由研究発表のほか、大学院生・若手研究者のための勉強会や、その時どきのトピックスをテーマにしたシンポジウムを開催しています。2023年度は、4月22日に愛知県産業労働センターウイングあいちにて開催いたしました。

2023年度の春の例会では、自由研究発表が2エントリーあり、報告および質疑応答が行われました。

大学院生・若手研究者のための勉強会では、「査読の壁を乗り越える!～学術誌への論文投稿～」をテーマとして開催し、コメンテーターを厨子健一さん(愛知教育大学)が務めました。

シンポジウムは、「ハンセン病と社会福祉」をテーマに行いました。新田さやかさん(長野大学)に「ハンセン病と社会福祉」と題した基調講演を行っていただいた後、映像資料を上映し、パネルディスカッションを行いました。映像資料は、愛知県・愛知県藤楓協会制作した「今、伝えたいこと—愛知県出身ハンセン病療養所入所者の証言記録」を用いました。パネリストには、坂田勝彦さん(群馬大学)から「ハンセン病療養所における入所者の営みと声からいま何を学ぶことができるか」、田村朋久さん(長島愛生園歴史館)から「ハンセン病回復者、語り部機能の継承について—長島愛生園歴史館の取組から—」と題してご報告いただきました。コーディネーターは、基調講演に引き続き新田さやかさん(長野大学)が務め、活発な議論の中で終えることができました。

中部地域ブロックでは、研究例会のシンポジウムを一般公開しています。今回のシンポジウムも多くの市民のみなさまにご参加いただくことができました。社会福祉学に関心のある人や支援に携わっている実践者をはじめ、幅広く社会福祉学の魅力を知っていただけるよう中部地域ブロック幹事で力を合わせています。

なお、機関誌『中部社会福祉学研究』は、4月末に第14号を刊行しました。学会ウェブサイトの中中部地域ブロックのページからダウンロードできますので、ぜひご覧ください。